

「前向きな個性」

教育企画推進部 平岡 銀河

今年度の第2学年「総合的な探究の時間」の統括担当をさせていただきました。初めて経験するお仕事でしたので、至らぬ点は多数ありましたが授業担当の先生方や79回生の皆様にはご協力いただき、ありがとうございました。

4つのキーワードを紹介します。私が学生の頃にお世話になった方からの教で、今でも自戒しています。「謙虚」・「根性」・「ユーモア」・「前向きさ」20代はこの4つが必要とのことでした。皆さんも直に20代を迎えますので参考になれば幸いです。ネガティブな個性は有効に働く場面もないことはないですが、少し難しい個性な気がします。世の中にはいろんな人が居ても良いという考えです。否定はしないものの、勿体なさも感じます。嫌々やって得られるものは無いと個人的に考えています。現実問題として、嫌だけどやらなければならないことはありますが、自分のモチベーション一つで得られるスキルや経験が変わるではないでしょうか。

2022年度より高等学校のカリキュラムが改定され、探究活動が必須になりました。なぜ探究が必要とされているのかは、本校や文部科学省のHPを調べれば十分に記載されてあります。「8組でもないのに、探究する必要ある？」といった生徒の声をよく耳にしました。情報を鵜呑みにせず、自分できちんと考えて結論を出すのは悪いことではないですが、どれだけ文句を言っても、国の方針として探究学習の機会が設けられています。私も恥ずかしながら、「探究活動によって〇〇力が身につく！」みたいな小難しいことは全てを理解できている訳ではありません。ですが、どうせやるならばとりあえず前向きにやってみては？と思います。気持ちの持ち方一つで、過ごした時間が不毛なものから有意義なものに変えられるのではないのでしょうか？こんな力を身に付けたという高尚な考えを持っていなくとも、とりあ

ず前向きに楽しくやってみるというチャレンジ精神によって、思いもしなかった経験をすることもあります。特に何もないかもしれません。でも「嫌々やる」よりかは良いのだと思っています。私の価値観や考え方を押し付けるつもりは無いですし、自分の人生なので好きなようにしたら良いとは思いますが、前向きな個性を早期の段階で身につけてみてはいかがでしょうか？

各学年 探究授業の実施報告

11月4日（火）2年一般

総合的な探究の時間 中間発表会

第2学年 276名対象に総合的な探究の時間において中間発表会を実施しました。また当日は、大阪大学学部生および大学院生の計8名に学生アドバイザーとしてお越しいただき、すべての発表班へ指導助言を頂きました。一般クラスの生徒にとっては、学外の方に発表する初めての機会であり、刺激を受けた生徒もいるのではないのでしょうか。学生アドバイザーの皆様、ご多忙の所お力添えいただきまして誠にありがとうございました。

今後は3/6の最終成果発表会に向けて、探究活動を継続し、ポスター作成等を進めます。



12月11日（木）1年類型

「探究入門」 進捗発表会

1学期には、多数の外部講師をお招きし、専門的な知識や探究の手法について幅広く学ぶ機会を設けてきました。講義やワークショップを通じて、生徒たちは探究の基礎を身に付けてきましたが、2学期からはその学びを踏まえ、実際に自分の興味や関心に基づいたテーマを設定し、個人で探究活動を進める段階に入りました。



12月11日には、「進捗発表会」を開催し、これまで取り組んできた個人探究の成果を互いに報告しあいました。本年度から個人探究に移行し、40名の生徒がそれぞれ独自のテーマを設定しているため、発表内容は非常に多様で、個性豊かなものとなりました。発表は、10名ずつ4グループに分かれて行われ、クラスのメンバーの探究内容を知ること、新たな視点や刺激を得るきっかけとなったようです。生徒同士の質疑応答も活発に行われ、探究活動へのモチベーションをさらに高める場となったようです。



＜生徒の活動ログより＞

- ・発表や質問の仕方が身につきました。一人の探究だと自分の分野の知識は深く広くなるのですが、その知識を知らない人に話す想定が難しくなっていました。そのため、今回の発表の機会ですどのように発表したら良いかという見解を立てることができました。また、質問をするためには批判的思考を用いる必要がありますが、私はその点にまだ苦手意識が残っています。その中で、今回質問することに挑戦して質問の仕方を学ぶことができました。
- ・自分がしたことを理解してもらうためには、写真などを資料に乗せるべきだったと思った。他の人の発表を聞いて、3学期への見通しが立っている人とそうでない人では質問のしやすさや内容(方向性)が違って来ると思った。
- ・自分の探究とクラスメイトの探究を比較しながら今後の進め方を考えることができた。また私の発表が器具の説明などが甘かったので初めて聞く人でも理解しやすい発表の仕方を改めて

考えようと思った。

- ・他の人からの質問を受け、個人探究では、自分の考えに固執してしまい、考えが偏っていたが、いろんな意見を聞けて考えを広げられた。

＜探究テーマ一部抜粋＞

ブロメラインを用いた可食型消毒液の開発と社会実装
源氏物語はなぜ現代まで継承されてきたのか、政治から読み解く
牛乳ゲルを利用した非常食の作成に向けた研究
直線翼型風力発電機の自己起動率向上について
糖類のデンプン老化抑制効果について
モデルロケットのパラシュート無し落下実験
人間×防災 防災教育を通じての防災意識率の変化
筋トレ方法の違いが筋肉の成長や疲労、集中力に与える影響
ランニングフォームとパフォーマンスの関係

特色類型説明会 実施報告

本年度も特色類型説明会を実施し、中学生と保護者合わせて約200名の方にご参加いただきました。1・2年生の有志による長田高校・人文数理探究類型のプレゼン発表が好評で、多くの参加者に本校の校風や類型クラスの魅力を伝えることができました。準備に関わっていただいた生徒諸君には改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

また卒業生(77回生)2名にも、本校の探究活動を通じて身についたスキルや現在の大学生活についてお話いただきました。現役生・卒業生が主体で本校の特色を発信する現在の形態を、今後もより一層強化して継続したいと考えております。多くの中学生に、本校で3年間学びたいと感じていただけたなら幸いです。是非お待ちしております。



2年生特色類型 探究 外部発表会の成果報告

探究Bの授業の一環において2学期に参加した外部発表会は以下の通りです。

①高大連携課題研究合同発表会 at 京都大学

令和7年11月3日(月) 2班が参加

『噴出口から噴出される粒子の堆積範囲』

『均一な濃度で解凍できるスポーツ飲料の開発』

②日本生化学大会

令和7年11月3日(月) 1班が参加

『有機酸の影響による、カゼインプラスチックの強度比較評価について』

⇒**高校生優秀発表賞**

③グローバルサイエンティストアワード夢の翼

令和7年11月9日(日) 4班が参加

『拡張チェーン表記の強化』

『コケの種類による屋上緑化の効果比較に向けて』

『江戸時代の洗濯における灰汁の有用性』

『花粉の種類による花粉光環の違い』

⇒**株式会社高校生新聞社賞**

④繊維学会秋季研究発表会 高校生セッション

令和7年11月15日(土) 1班が参加

『有機酸の影響による、カゼインプラスチックの強度比較評価』

⑤高校生 私の科学研究発表会

令和7年11月30日(日) 2班が参加

『花粉の種類による花粉光環の違い』

『ペダル式ペットボトル圧縮ごみ箱の開発』

⑥中・高生 探究の集い

令和7年12月13日(土) 3班が参加

『見落とししやすい誤植とはどのようなものか』

『江戸時代の洗濯における灰汁の有用性』

『噴出口から噴出される粒子の堆積範囲』

⑦奈良女子大学サイエンスコロキウム

令和7年12月13日(土) 2班が参加

『花粉の種類による花粉光環の見え方の違い』

『災害時に太陽光で湯たんぽに使える湯を作る』

⑧質問力を鍛えるワークショップ

令和7年12月13日(土) 2班が参加

『仮設住宅における植物育成活動の導入』

『白背景黒ゴシック体雑学ショート動画の動画フォーマットの合理性の検証』

⑨リバネス サイエンスキャッスルワールド

令和7年12月13日(土)・14日(日) 3班が参加

『拡張チェーン表記の強化』

『江戸時代の洗濯における灰汁の有用性』

『均一な濃度で解凍できるスポーツ飲料の開発』

⇒**未来エール MIRAI-E 賞**

⑩甲南大学リサーチフェスタ

令和7年12月21日(日) 2班が参加

『見落とししやすい誤植とはどのようなものか』

『江戸時代の洗濯における灰汁の有用性』



編集後記

2学期は各自の探究活動をすすめ、様々な外部発表会に参加して成果を共有する取り組みを行ってきました。3学期は1年間の取り組みの集大成としてSSH探究成果発表会を計画しております。今年度より、「全校で探究活動に取り組み、相互に共有すること」や「SSH事業の成果を全校に波及させること」を目的に、従来は類型と一般で分かれていた成果発表会を一本化することにしました。以下に詳細をまとめています。

学校関係者・保護者の皆様に公開を予定しております。ぜひご来校の上、発表をお聴きください。

日時：2026年3月6日(金)

9:00 受付開始

9:15 午前の部

ポスター発表(体育館)・

オーラル発表(3階 HR 教室)

11:45 午後の部開始

代表発表(講堂)

閉会行事・助言者講評

14:00 終了